

「ワーカー」氏著
通貨論第十八編
交換紙幣ノ理論

第二〇〇



414
A 1422
8

第十八編

交換紙幣の理論

(前論ノ續キ)

英國銀行ハ一千七百九十一年ニ至ル迄猶ホ價格二十封度ニ

一紙幣ヲ發行セザリシ、フランシス氏著ス所ノ英國銀行史第

一編一百七十二葉ヲ視ヨ、尋常通貨トシテ銀行紙幣ヲ發行シタ

ルハ英國ヨリモスコットランドヲ以テ先トス、蓋シスコットラ

ンド銀行ハ一千七百〇四年ニ於テ既ニ十封度銀行紙幣ヲ發行

セリ、サリペンリ、バル子ル氏及ヒトルントン氏ハ米國革命戰

争ノ局末ヲ以テ英國ニ紙幣發行事業ノ初テ著シク擴充セシ時

ナリト論セリ

吾輩今交換紙幣ノ貨幣ニ比シテ大ニ輕便ナルト著シク廉價ナ

ル、ノ二利ヲ觀察セリ、而シテ或論者之ニ如フルニ第三ノ利

益ヲ以テス、サレバ此利益ニ就テハ論者各大ニ其所見ヲ異ニス

大正十一年四月
源次郎譯

「ライズ」氏ハ上文ニ屢ク引用セシ其著「所ノ通貨原論」ニ於テ「ゲ」スゴ「」ノ谷衆銀行ノ支配人「チャ」レスガルド子「ル」氏ノ論説ヲ引用シ「世」々之ヲ賞讃セリ、蓋シ「チャ」レスガルド「ル」氏ノ銀行紙幣ニ就テ主持スル所ヲ觀ルニ、云ク銀行紙幣ニ第一ノ利益アリ乃チ何レノ國ヲ問フス國內ニ流通スル寶貨ノ額高ハ常ニ増減スルモノナリ、而シテ紙幣ハ其流通高ニ増減ヲ生スルヲアルモ其申縮容易ナルカ故ニ決シテ其準備金タル貨幣ノ額高ヲ變動スルヲアラザルナリ

「バ」テルソン「」氏ハ其著ス所ノ財政學ト題スル著述ニ於テ左ノ如ク論述ス、當今世ニ流通スル銀行紙幣ノ功用ノ大ナルヤスクナクモ此國ノ如キ銀行理財法ノ十分ニ開達セシ國ニ於テハ其利僅々貨幣ヲ節儉スルニ止マラス、自由ニ膨脹スルノ力アルカ故ニ貨幣供給ノ變化ト國內寶貨需用ノ變化トヨリ常ニ發生スル

通貨ノ増減動搖ヲ平準ナラシムルノ益アリ

右増減動搖ノ高ハ甚タ些少ニシテ唯一時ノ變動ナリ、然リト雖「比」斯ノ如キ時機ニ當リ或障礙アルアツテ紙幣流通高ノ膨脹ヲ妨過スルハ必ス非常驚クベキノ惡結果ヲ生スルナリ、既ニ然ハ「中」ハ特リ貿易ノ衰頽ヲ來タスノミナラス其銀行事業モ恐ラク覆滅ニ至ラン、右ハ「バ」テルソン「」氏著ス所ノ財政學第三十七葉

ヲ引ク

右ニ舉示スル論者ノ主持スル所ノ要旨ハ乃チ紙幣ハ貨幣ヨリ「一」層彈力多キ交易ノ中介ナリ、是レ紙幣ニ固有スル一便益ナリト云フニアリ、之レニ反對スルノ論者二派アリ其甲派ハ乃チ該彈力タルヤ決シテ願ハベキモノニアラザルノミナラス實際ニ於テ紙幣ニ其彈力ナキヲ主持シ、乙派ノ如キモ其晩年ノ著述ニ於テ此派ノ説ヲ執レリ、其乙派ノ主張ハ乃チ交

換紙幣ハ斯ノ如キ膨脹力ヲ有スベシト雖、是、甚々願フベカ
ラザルコナリ、而シテ之カ為メ其著シク、使ナルト儉廉ナレト
ノ二利ニ大ナル後戻ヲ生スルナリト主張スルニアリ、ロルド、
ヲバーストン氏モ此説ヲ主持シ、ト、ク氏ノ如キモ其早年ノ著
述ニ於テ此説ヲ執レリ

余前編ニ於テ既ニ造幣料ノ物價上ニ及ホス影響ニ関スルリ
カルド氏ノ持論ハ其著ハス所ノ金銀地金高價論中ノ説ト撞
著シ其一致スル所ヲ見ザルヲ説明セリ、而テ今又同氏ノ節儉
安全通貨建言中左ノ如キ説アルヲ鮮明スル能ワザルニ至レ
リ、乃チ其説ニ云ク紙幣ハ貿易ノ所要ト社會一時ノ情勢トニ
從テ自由ニ其額高ヲ俾縮スルヲ得ベキカ故ニ寶貨ニ一定ノ
價格ヲ持續セシムルノ目的ヲ實行セラル、文儉廉安全ニ達
スルヲ得ベキナリ是レ紙幣ノ貨幣ニ勝ル便益ナリ

抑モ銀行紙幣ノ膨脹力ハ貨幣ノ膨脹力ニ勝ル即チ超過スルノ
論題ニ至テハ其中ニ交換紙幣理論ノ全体ヲ含有ス

甲派論者ノ説若シ正當確實ニシテ交換紙幣ハ貨幣ト一般ニ甚

々伸縮スルモノニアラストスルハ其論題極テ單純ニシテ

善良、寶貨ヲ國民ニ與フルニハ善良ノ銀行事業ノ外他ニ要ス

ハキモノナキヲ觀ルナリ

右ト反對シ交換紙幣ハ貨幣ト異ナリ甚シク伸縮スルモノトナ
スルハ「ロルド、ヲバーストン」氏ト持論ヲ同フスル人々ハ過度
ノ伸縮ヲ豫防ヤンカ為メ緊密ニ紙幣發行權ヲ束制シ之ヲシテ
銀行事業ノ條理ニ基テ制定シタル法制ノミナラス不良ノ寶貨
ニ向テ社會ヲ保護スルニ必用ノ條例ニ從カハシムルヲ以テ緊
要ト思惟スルトラン

交換紙幣ニ所謂彈力アルハ好願スベキノ論ニ就テ先、一

言セザルヲ得ズ

不換紙幣ノ主持者及ヒ讚成者ハ皆不換紙幣モ亦彈力ヲ有スル
トヲ確定ス、是レ余輩ノ既ニ觀察セシ所ナリ、然リト虽モ余輩ハ
其問題ヲ分拆考究シ而シテ不換紙幣ハ決シテ少シモ彈力ヲ有
セザルトヲ證明セリ、夫レ不換紙幣ヨリ組織スル通貨ノ彈力ヲ
有セザルヤ一度之ヲ壓着スレバ其壓力ヲ去ルモ其本形ニ復ス
ルノ彈力ナキト猶澁粉ノ一塊ノ如シ、蓋シ澁粉ハ之ヲ引延ハシ
スクナクモ切レ離ル、ニ至ラシムベシサレバ其引延力ヲ除キ
去ルノ後決シテ本形ニ復スルノ彈力ヲ有セズ
併シナカシテ言詞ノ適當ナル意義ニ於テ交換紙幣ハ彈力ヲ有ス
ル乎、抑モ寶貨ニ彈力ヲ有スルヲ主持スルノ論者ハ皆此彈力ナ
ル言詞ニ由テ甲時ニ於テヨリモ乙時ニ於テ寶貨ノ許多ナルト
アルヲ義スルモノ、如シ、是此ヲ彈力ト名クベキ乎、ゴム紐ハ彈

力ヲ有サレバ甲時ト乙時ニ由テ其分量ヲ異ニセズ、甲時ヨリ
モ乙時ニ於テ一層多クノ場所ヲ占ムベシト雖モ其然ル所以ノ
モノハ唯之ヲ稀薄ニナスニ由ルノミ故ニ甲時ヨリモ乙時ニ於
テ或場所ニゴム紐ノ量多キトアルベシト雖モ其力為メ其他ノ
場所ニ於テ分量少ナキヲ致スベシ、此ヲ以テゴム紐ハ之ヲ拉伸
スルモ其量ハ前ト毫モ増スコナシ、抑モ彈力ハ其本義ニ於テ寧
ロ著シク貨幣ニアルモノナリ、凡ソ人類ノ知ル諸物品ノ内ニ就
テ其伸脹ノ神速ナルハ貨幣ヨリ甚シキヲ觀ザルナリ、某地方ニ
於テ貨幣ニ非常ノ需用ヲ生スル所ハ金銀貨幣ハ驚クベキ速力
ヲ以テ之ニ應スベシ、蓋シ其需用ニ應スルノ神速ナルヤ實ニ交
易ノ為メニ萬物品ノ價直ヲ表スル物品ニアラズシテ且其容量
ノ巨大ナルヨリ價直ヲ有スルニアラザル物ノ決シテ及バザ
ル所ナリ、是故ニ理財上ノ變動ニ由リ甲時ヨリモ乙時ニ甚シク

一地方ニ貨幣ノ集ルヲアルベシト雖モ之が爲メ其総額ハ少シ
モ増加スルナキナリ、蓋シ斯ノ如ク一地ニ増加スルハ同時ニ
或他ノ地方若シクハ他ノ總地方ニ減少スルニ由ル、夫レ此事實
ハ貨幣ニ一伸一縮ヲ生スル所以ノ本ナルガ故ニ右某地方ニ於
ル非常ノ需用停止スルニ至ラハ萬國貿易ノ情勢ニ從テ其輻湊
マシ寶貨ハ忽チ各地方ニ流動シ其平準ヲ求ムルヤ疑ヲ容ルベ
カラザルナリ

然リト雖モ交換紙幣ニ於テハ変シテ斯ノ如キ彈力アルヲ保証
スル能ハス、一地方ニ需用ノ増加スルヲアルモ之ニ應スルノ供
給ハ一般ニ總地方ヨリ集マルニアラス、又其需用ノ終ヲ告グル
後ハ再々各地方ニ流散シテ尋常ノ流通ニ復スルニアラスシテ
其伸縮共ニ各一地方ニ止マリ、其地方ニテ發行シ其地方ノ是
認流通スル紙幣ヲ以テ其需用ニ對應スルナリ

サレド論者アリ或ハ云フ各地何レノ地ヲ問ハス皆其貿易上ニ
於テ一周年中ノ甲季ヨリモ乙季ニ寶貨ヲ要用スルヲ甚大ナリ
トス、而テ貨幣ノ額高ハ春夏秋冬更ニ其量ヲ變更セスト雖モ紙
幣ニ至ラハ決シテ然ラス、貿易取引ノ繁多ナル時季ニ於テハ自
カラ其流通額ヲ増加シ以テ其需用ノ増ニ應シ、貨幣ノ爲シ能ハ
サル便益ヲ達スルナリト、夫レ一地方若シクハ一種ノ貿易ヲ以
テ論スレハ一周年間ニ於テ或時季ニ交易ヲナス極テ繁多ニシ
テ著シク他三季ニ超過シ從テ交易ノ中介タル寶貨ヲ要用スル
特ニ甚シキヲアルハ疑ヲ容ルベカラスト雖モ持リ其地方ノ紙
幣發行ニ由テノミ寶貨ノ流通高ヲ増加シ以テ其所要ニ應スル
ノ論ニ至テハ三種ノ反對論アルヲ免カシス

第一、一定時季ニ寶貨使用ノ増加スルヤ各一地方皆其時季ヲ
異ニスルカ故ニ到底活動往來シテ其需用ニ應シ其便ヲ達スル

モノタルヲ知ル、喻ハ製造者ノ繁多ナル時ハ必シモ農夫ノ繁多ナル時ニアラス、材木ト棉花ト必シモ、時季ニ市場ニ出テス、又貿易ノ盛時季ハ各國各地方皆一周年ニ其時季ヲ異ニス、故ニ本月佛國ニ於テ流通使用セラル、ノ貨幣ハ來月英國ニ復歸シテ「ランカスサヤ」ノ需用ニ應ス、其後二週間ヲ歷テ「グラスゴ」ニ流出シ、以テ「スコットランド」鉄貿易ノ所要ニ應ス、蓋シ十一月ニ於テ貨幣ノ北方ニ流出スルハ各年ノ常習ナリ
第二寶貨ヲ使用シテ一層許多ノ交易ヲ為シ遂クル事實アルガ為メ一層許多ノ封度若シクハ「ドルラ」ヲ要用スルノ理ハアラザルナリ、抑モ寶貨ナルモノハ余輩ノ既ニ開陳セシ如ク二種ノ度量ヨリ組成スルモノニ外ナラス、其一種ハ金貨銀貨若シクハ紙幣ノ額數、其第二種ハ活動流通ノ速力是レナリ、夫レ寶貨缺乏ガ第一ニ影響スル所ハ人ノ所持スル寶貨ノ自カラ大ニ其活動

ヲ増スニ至ルニアリ、故ニ各寶貨皆以前ト時限同シクシテ仕拂ヲ為シ遂クルト夥多ナリ、從テ利息ノ割合騰貴スルヨリ寶貨ノ使用益々貴キヲ致ス、此ニ於テ衣囊若シクハ金箱ニ久シク滞在スル、寶貨ナキニ至ラン、又商人及ニ製造者其為換手形等ノ割引ニ六分ノ代リニ八分ヲ拂ハザルヲ得サルニ至ラバ必ス一層精密ニ其出金ト入金ヲ計算シ以テ可成丈其金箱ニ滞在スル平均額高ヲ少ナカラシメント企圖スベシ、又人高利ヲ得シカ為メ以前ヨリモ一層神速ニ其所得金ヲ預クベシ、又其主顧者ヨリ請取ルベキノ金額ニシテ之ヲ催促セザレバ一日乃至一週間モ遅慢ニ至ルベキモノヲ一層勉強シテ之ヲ取り集ムルニ至ラン
第三夫レ甲時ヨリモ乙時ニ於テ寶貨ノ需用増進スルアルハ生産及ニ貿易ニ於テ一定ノ情勢ナリト欲ス、斯ノ如キ時ニ當テ金融ノ自由ナラザルハ投機博奕ノ惡風ヲ抑制スルノ功アルヲ以

テ甚タ好願スベキナリ、且現今坤輿ノ工業貿易ノ情勢ヲ觀察
スルニ生産上ニ驚クベキ浮沈ヲ生スル 劣アツテ一浮一沈過
度ノ生産アリシ後ハ必ス非常ノ不景氣ヲ生セリ、此一浮一沈ノ
情勢ハ人カノ能ク制シ得ベキ所ニアラザリシヲ觀ル、蓋シ一時
非常ノ隆盛ニ繼テ其成果ニ衰頽ヲ顯スハ今之ヲ理財上ノ一定
則トナササルヲ得ザルナリ、然リト雖モ各地方ニ於テ紙幣ノ發
行流通ノ自由ナルヨリ右浮沈ノ勢ヒテ迅速鞏固ナラシムルハ
決シテ願フベキコニアラザルナリ

交換紙幣ハ其流通高ヲ増額スルノ容易ニシテ金銀貨幣ト大ニ
其伸縮ノ種類若シクハ度ヲ異ニス、是レ實際ニ行ハルベキコ
シテ甚タ好願スベキコナリト「バテルソン」氏ト俱ニ主持スル論
者ノ持論ヲ考究シ去リタレハ、今一步ヲ進ミ二派ノ論者アリ情
勢同シクシテ交換紙幣が貨幣ト其伸縮ヲ異ニスルハ甚タ願フ

ベカテザル事ト云ニ於テ其意見ヲ同フシ、斯ノ如キ伸縮ノ差異
ハ實際ニ生スベキト否ラザルトニ至テ其所見ヲ異ニス、今人士
ニ就テ余輩ノ觀察スルヲ要用ト信スルナリ

第一交換紙幣ト貨幣トニ伸縮ノ差異アルハ甚タ好願スベカラ
ザルコトニ就テ論ス

「ウイルソン」氏云ク貨幣ト交換紙幣トノ混合通貨ハ純然タル貨
幣ノ伸縮ニ一致應合セザルベカラス

「ニコルソン」氏云ク銀行紙幣及ヒ貨幣ヨリ組織セラル、所ノ通
貨ハ法律上其額高ノ伸縮ヲシテ其時ノ情勢同シケレバ特リ貨
幣ヨリ組織スル通貨ノ伸縮ニ應合セシメザルベカラス

「ト」氏云ク吾人ハ貨幣ヲ以テ紙幣ト貨幣トノ混合通貨カ應
合スベキ模型トナサザルベカラス

「ジ」ヨウジ、ワート、ノルマン」氏云ク稍不輕便ナルト費用多キト

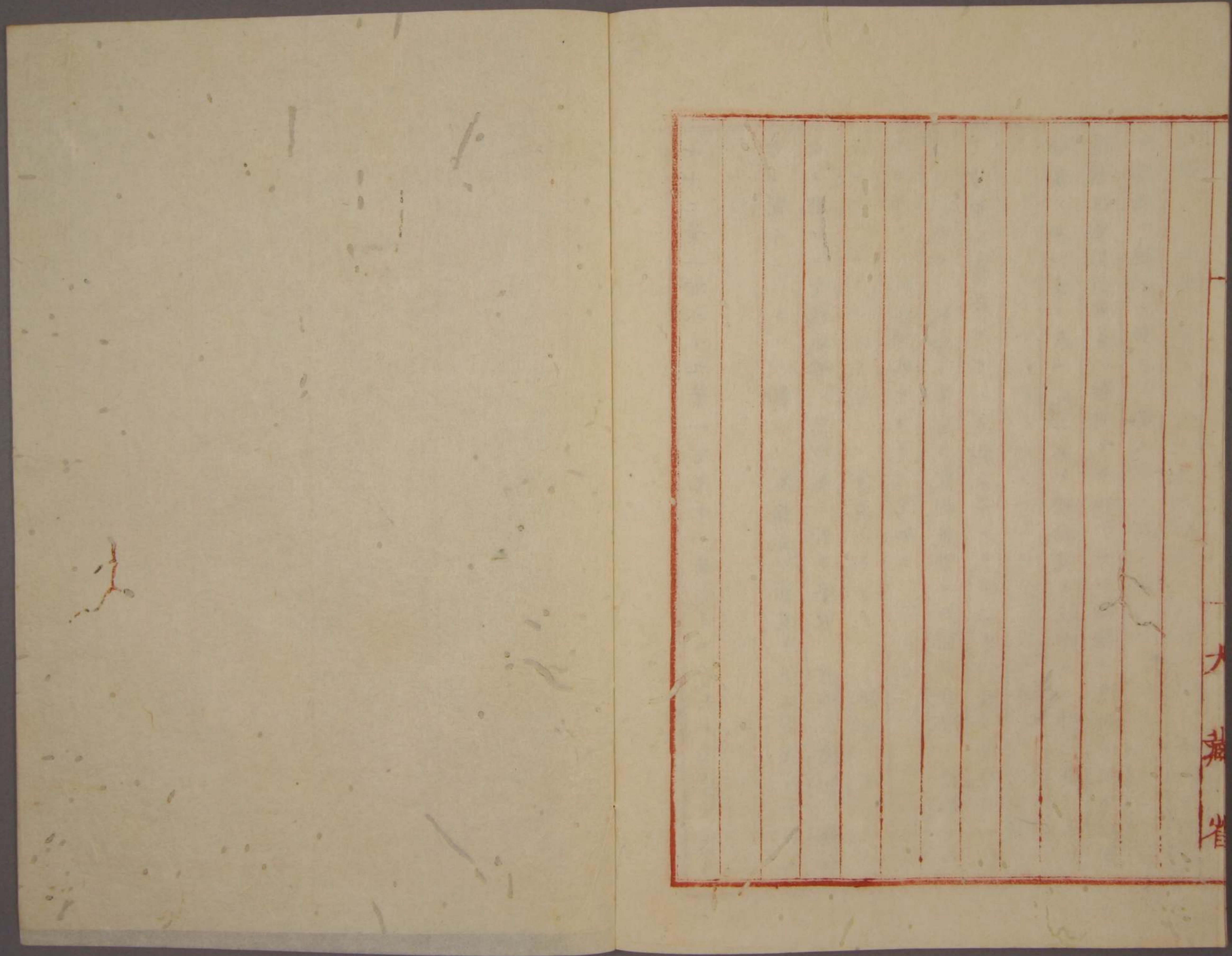
ヲ除クノ外余ハ貨幣ヲ以テ最モ十分ノ通貨ナリト考フ貨幣ハ
右二害ヲ除クノ外他ノ萬ノ事ニ就テ最モ十分ノモノナルヤ疑
ヲ容レザルカ故ニ之ヲ以テ他ノ諸通貨ノ模型トナサザルヲ得
ス
「ロルドヲバースト」氏云ク通貨ノ發行其宜ヲ得ザルヲ明証
スルノ定規トナスベキモノハ何ソト問ハレ之ニ答ルニ決シテ
異論爭議スベカラザルノ答辭アリ、乃チ紙幣流通高ノ伸縮カ金
銀貨幣ノ伸縮ニ應合セザルヲ觀ルベシ「同氏著ス所ノ雜説第一
百六十八葉ヲ觀ヨ」

同氏又云ク紙幣ヲ制理スルノ道ハ他ナシ唯其流通高ノ伸縮ヲ
シテ專ラ貨幣ヨリ組織スル通貨ノ額高カ場合ノ同シ情勢ニ於
テ伸縮スルカ如ク均一ナラシムルニアリ「同シク雜説第三十六
葉ヲ二十七葉五十八葉七十三葉一百十五葉一百六十八葉一百

七十二葉一百八十九葉一百九十一葉及ヒ三百六十二葉ニ参考
スベシ

右ニ開示スルモノハ即チ二派論者ノ意見ナリ、右引用スル所ニ
由テ觀ルニ交換紙幣ハ其伸縮ニ於テ緊密ニ貨幣ノ舉動ニ應合
セザルベカラズト主張スル意義ノ十分ナルト語勢ノ確實ナル
トニ至テハ二派甲乙ナキモノ、如シ

「ト」氏云ク紙幣カ緊密ニ交換紙幣ナル間ハ貨幣ニ應合セリ、
又貨幣ニ應合セザルヲ得ザルナリト余輩ハ敢テ主張スルナ
リ
余輩ハ今此章ヲ畢リ右二派ノ理財家ヲ岐分スル所ノ点ニシテ
通貨主義銀行主義ノ題目ニテ知ラル、論題ニ進行シ之ヲ此章
ノ論旨ニ連続シ觀ント欲ス



大
藏
卷

